

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	浪速区
学 校 名	大阪市立塩草立葉小学校
学校長名	竹内 幸延

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- (2) 質問紙調査
 - ・児童に対する調査
 - ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・塩草立葉小学校では、第6学年 39名

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度の平均正答率は、過去初めて、国語A・B、算数A・Bのすべてにおいて、大阪市の平均正答率を上回っている。特に、算数A（主として知識に関する区分）では、大阪市の平均正答率を6ポイント上回っている。全国の平均正答率と比較すると、国語Aでは2.8ポイント、国語B（主として活用に関する区分）では1.5ポイント下回っている。算数Aでは、2.4ポイント上回り、算数Bでは、0.9ポイント下回っている。国語A・B、算数Bともに、全国の平均正答率との差は年々小さくなっており、算数Aの平均正答率は、2年連続して全国平均を上回っている。また、答えをまったく書けない「無解答率」の平均割合は、すべての問題で、大阪市および全国の平均を下回っており、根気よく問題に取り組んでいる。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

A問題の「話すこと・聞くこと」「読むこと」領域では、正答率が全国平均を0.2ポイント上回っている。しかし、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域では、全国平均を約3ポイント、B問題の「読むこと」領域では、全国平均を約5ポイント下回っている。

〔算数〕

A問題の「数と計算」「量と測定」領域では、正答率がともに全国平均を約1～3ポイント上回っている。B問題では、「数と計算」「図形」領域の正答率がともに全国平均を約1ポイント上回っており、「数量関係」領域では、全国平均を約1ポイント下回っている。

タブレット端末、電子黒板などICT機器の活用や習熟度別少人数授業の充実などにより、一定の成果を上げているため、今後さらに取り組みを充実させていく。

質問紙調査より

〔児童質問紙調査〕

「毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか」の回答は、「あてはまる」「まったくあてはまらない」がともに全国平均を上回り、二極化が見られる。「将来の夢や目標を持っていますか」の回答も同様である。規範意識や国語・算数の理解では、肯定的な回答が多い。今後も、家庭、地域と連携して、基本的な生活習慣や自尊感情、学習意欲をはぐくんでいく。

〔学校質問紙調査〕

学習意欲や規律が定着しており、校内研修や授業研究会の充実など、「わかる授業」の展開をめざして取り組んできた。今後も、教員の資質向上のため、研修を充実させていく。

今後の取組

国語、算数ともに、大阪市の平均正答率を上回っており、算数Aは全国の平均正答率をも上回っている。算数A以外でも、全国平均との差は縮小傾向にある。国語や算数の学習内容を理解しているという児童が増加しており、習熟度別少人数指導やTT指導などの個に応じたきめ細かい学習指導が成果を上げてきている。「早寝、早起き、朝ごはん」の基本的な生活習慣や家庭での学習習慣について、二極化がみられるため、家庭、地域にはたらきかけて、より定着を図りたい。また、人権教育を従来通り推進し、一人ひとりの自己有用感や自尊感情を高める。今後も、習熟度別少人数指導やICT機器を活用した授業などを工夫する。2020年度より完全実施される新学習指導要領をふまえ、あらゆる教育活動を通じて、主体的・対話的で深い学びを推進する。

【 全体の概要 】

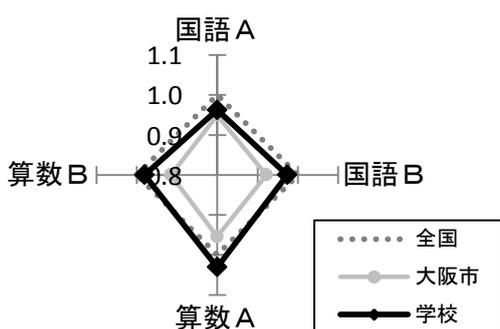
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	72	56	81	45
大阪市	71	53	75	42
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

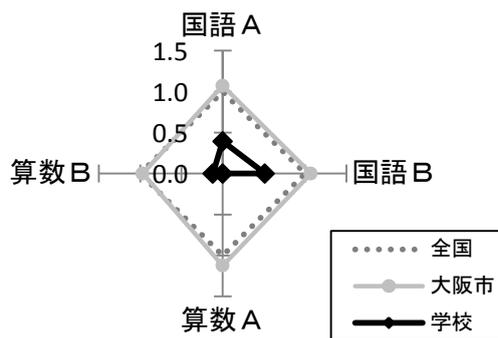
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	1.1	2.2	0.0	0.8
大阪市	3.0	4.6	1.8	6.2
全国	2.8	4.3	1.6	6.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)

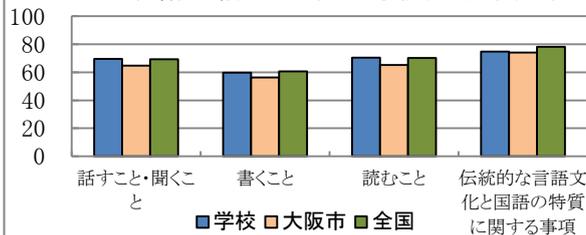


【 国語 】

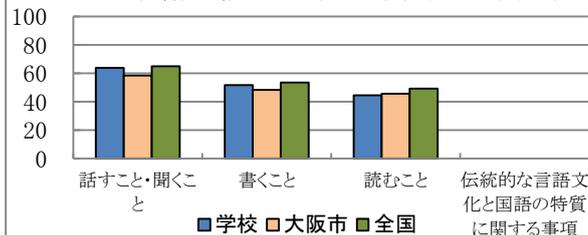
A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	69.4	64.6	69.2
	書くこと	2	59.7	56.2	60.6
	読むこと	3	70.4	65.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	74.7	74.0	78.0

B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	63.9	58.4	64.9
	書くこと	5	51.7	48.3	53.4
	読むこと	3	44.4	45.5	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—

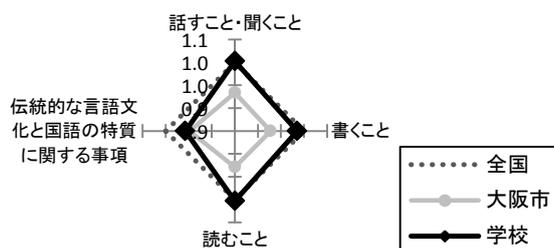
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



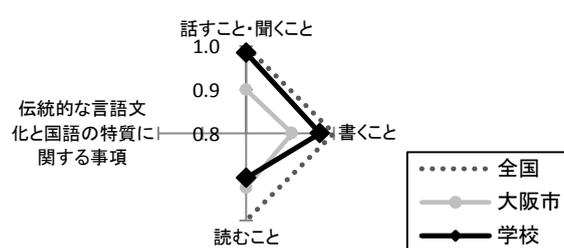
国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



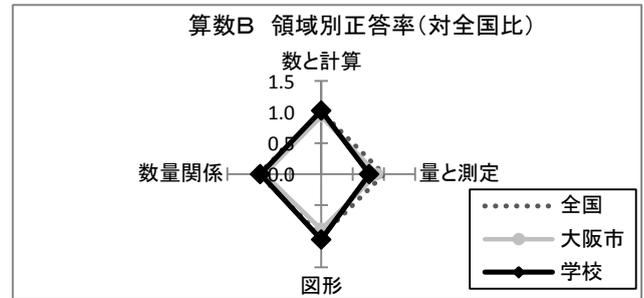
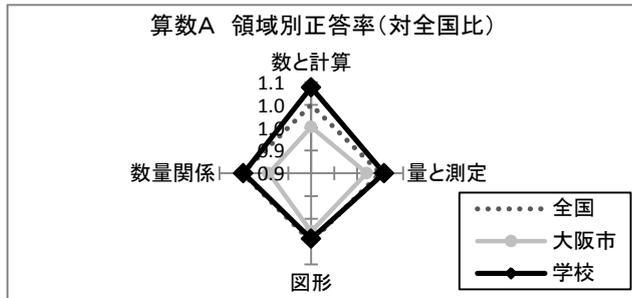
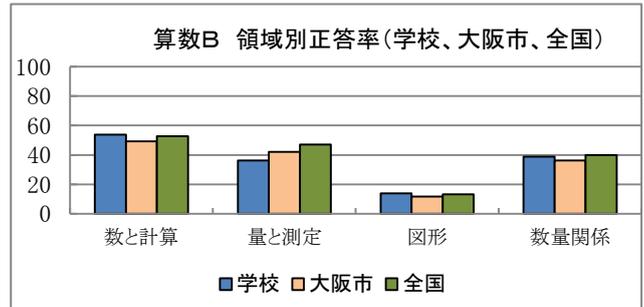
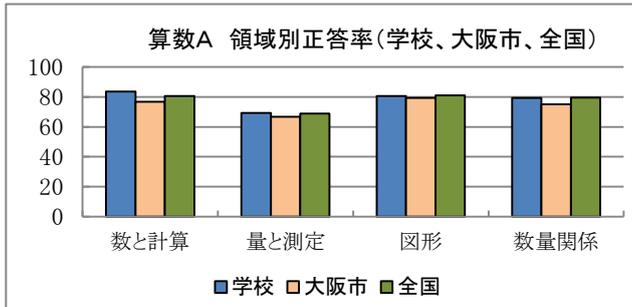
国語B 領域別正答率(対全国比)



【 算 数 】

A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	83.7	76.7	80.6
	量と測定	2	69.4	66.8	68.8
	図形	2	80.6	79.3	81.1
	数量関係	5	79.4	75.0	79.6

B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	5	53.9	49.2	52.8
	量と測定	2	36.1	42.0	47.0
	図形	1	13.9	11.7	13.2
	数量関係	8	38.9	36.1	40.0



児童質問紙より

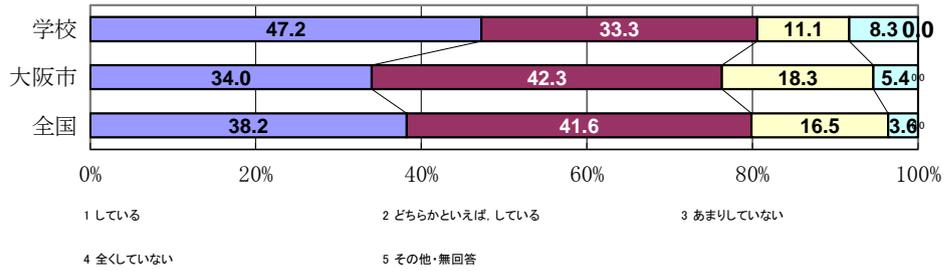
■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ 10

質問番号

質問事項

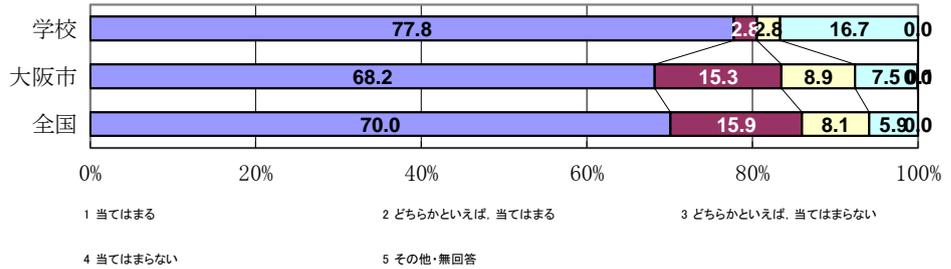
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



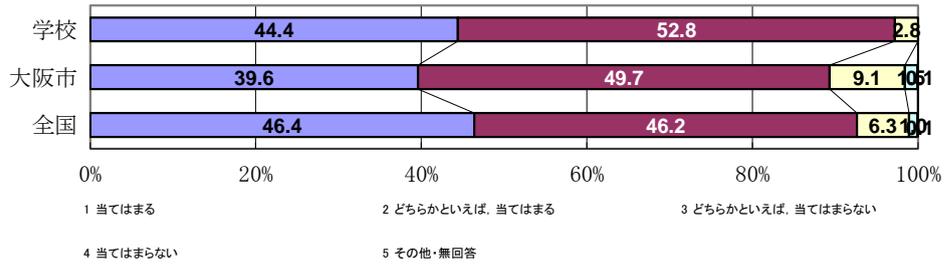
10

将来の夢や目標を持っていますか



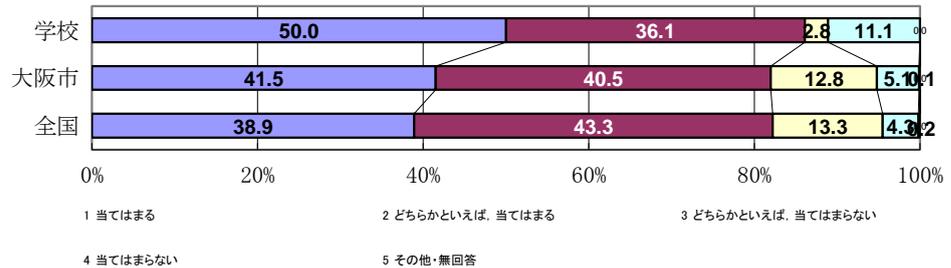
49

学校のきまりを守っていますか



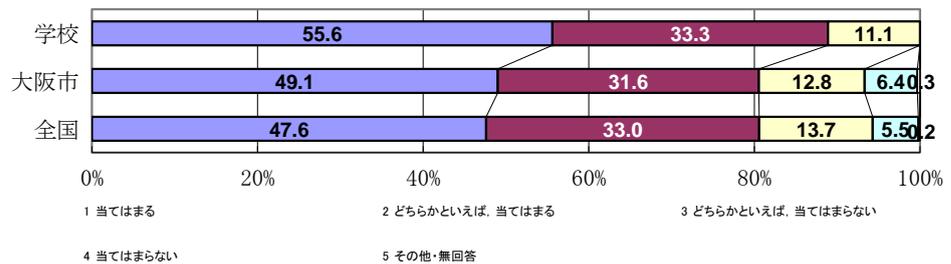
71

国語の授業の内容はよく分かりますか



80

算数の授業の内容はよく分かりますか



学校質問紙より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

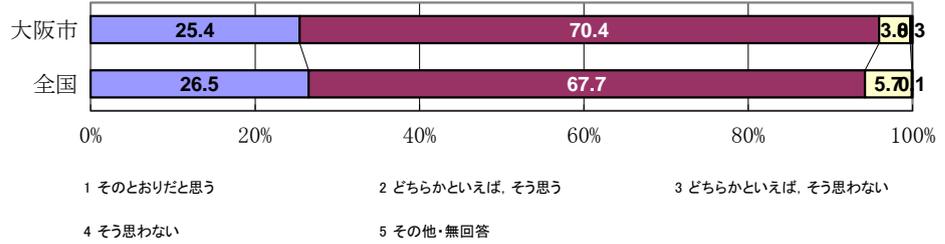
質問番号

質問事項

12

調査対象学年の児童は、
熱意をもって勉強している
と思いますか

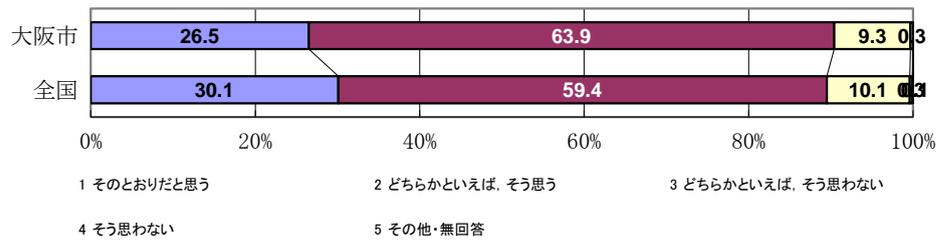
学校 「そのとおりだと思ふ」を選択



14

調査対象学年の児童は、
礼儀正しいと思いますか

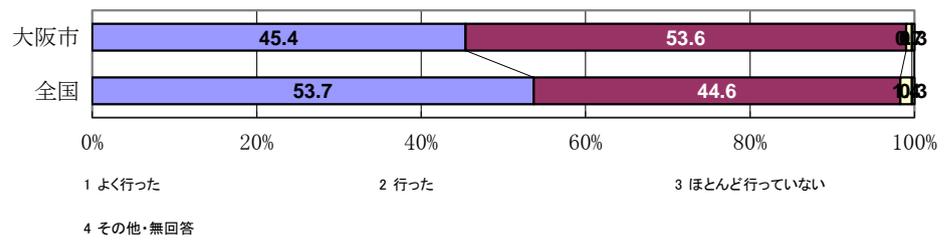
学校 「そのとおりだと思ふ」を選択



55

平成28年度全国学力・学
習状況調査の自校の結果
を分析し、学校全体で成果
や課題を共有しましたか

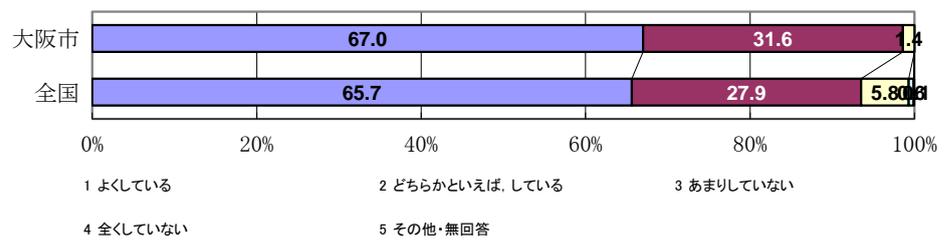
学校 「よく行った」を選択



99

学校でテーマを決め、講師
を招聘するなどの校内研修
を行っていますか

学校 「よくしている」を選択



104

授業研究を伴う校内研修を前
年度に何回実施しましたか

学校 「年間15回以上」を選択

